

# 枝幸町におけるイヌワシ幼鳥の観察記録

先崎啓究<sup>1)</sup>・先崎理之<sup>2)</sup>・梅垣佑介<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 日本野鳥の会苫小牧会員 〒468-0066 愛知県名古屋市中天白区元八事3-400-106

<sup>2)</sup> 北海道大学水産学部 〒061-1142 北海道北広島市若葉町3-4-1

<sup>3)</sup> 日本鳥学会会員 〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-8-3-202

イヌワシ(*Aquila chrysaetos*)は、北海道から九州にかけての低山から高山に周年生息する大型の猛禽類である(森岡ほか 1995)。北海道では全道的に散発的な記録があるのみで(河井ほか 2003)、宗谷管内では2004年3月20日、21日に宗谷岬において成鳥が観察された例がある(久野私信)。

今回、筆者らは枝幸町目梨泊において、イヌワシ幼鳥を観察、撮影した。その後断続的に複数の観察者によって同一個体と考えられるイヌワシ幼鳥が同所で観察された。本稿では、その観察記録の一部を報告する。

2012年1月2日10時13分に枝幸町目梨泊地区にて、海岸沿いの低山の尾根付近をハシブトガラス(*Corvus macrorhynchos*) 2羽に追尾される本個体を発見した。主に飛翔時、断続的にオオワシ(*Haliaeetus pelagicus*)やオジロワシ(*Haliaeetus albicilla*)、ワタリガラス(*Corvus Corax*)等より攻撃を受けるが、逃走飛翔等の逃避行動は見られず、時折樹上や岩の上に止まって休息を行っていたことから、その場所への執着を感じさせた。その後、筆者らの観察を嫌って地上高100m程の高さまで旋回上昇し、同10時27分、問牧地区方面へ旋回帆翔して移動した。

1月25日も同所にて、11:59~12:08、12:26~29、12:59~13:09の3回にわたり、旋回帆翔での探餌行動や林内へ降下する等の行動が日本野鳥の会オホーツクの渡辺義昭氏によって観察された。また、2月3日までに同所にて複数回、本個体と考えられるイヌワシ幼鳥の観察記録がある(村山私信)。

本個体は、大きさや黒褐色の体色、オジロワシ幼鳥に比べて尾羽が長い点、オオワシ幼鳥と違い円尾である点、嘴にほとんど黄色味が見られない点か

らイヌワシである。また、本個体は初列風切、次列風切等の風切や、尾羽に換羽の痕がなく、各羽の形状が一様であること、初次列の風切基部と尾羽基部に白色部が見られることから前年生まれの子鳥と考えられる。イヌワシのこの年齢に類似する同属他種は見られない(森岡ほか 1995)。

観察地付近ではエゾシカ(*Cervus nippon yesoensis*)が数多く目撃されており、カラス類やワシ類が死骸を捕食していた(村山私信)ことから、本個体もそれに依存して定着していた可能性が考えられる。

道内における正確な繁殖状況は未確認であること、サハリンでは稀な旅鳥または冬鳥であること(河井ほか 2003)等から、本個体はサハリンなど、北海道よりも北側から渡来した可能性が考えられる。近年、道内における定着確認例はないことから本事例はとても貴重な例と考えられ、今後の動向に注目する必要がある。

## 謝辞

この報告に伴い、貴重な観察記録を提供くださった日本野鳥の会オホーツクの渡辺義昭氏、渡り鳥研究家の久野公啓氏、この場を提供して下さった村山良子氏、執筆にあたってアドバイスを下さった川田隆氏にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳, 2003; 北海道野鳥図鑑. 亜璃西社  
森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男, 1995; 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版



写真1. イヌワシ (先崎理之撮影)



写真2. イヌワシ (先崎啓究撮影)